

氏名	毛利 幸
学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙 第 262 号
学位授与の日付	昭和42年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	脳溢血の外科的療法の適応に関する実験的研究 第1報 脳内血腫周辺部の病理組織学のおよび組織化学的研究 第2報 脳波学的研究
論文審査委員	教授 田中 早苗 教授 西本 詮 教授 砂田 輝武

学位論文内容の要旨

脳内に血腫が生じた際、それを放置した場合と除去した場合とで、生体にあたえる影響の差異を検討する目的で、成犬を用いて自家血注入により脳内血腫を作成し、それを放置した場合と除去した場合につき、血腫周辺脳組織を組織化学的ならびに組織学的に検討するとともに、併せて脳機能を知る手段として脳波学的検討を行なった。組織化学的検索に用いた酵素は α -Glycerophosphate dehydrogenase, Lactic dehydrogenase, Succinic dehydrogenase, Malic dehydrogenase の4種の解糖系脱水素酵素、および Glutamic dehydrogenase のアミノ酸代謝系脱水素酵素の5種脱水素酵素である。

組織化学的検索では血腫形式後2カ月の例では、血腫周辺組織に上記酵素活性の低下した領域をみると、血腫除去例ではそれをみとめない。

病理組織学的検索では、脳内血腫をみとめるのみで、前記組織化学的検索によりみとめられた低活性領域と正常活性領域との差は判然としない。

脳波的検索では、脳内血腫形式により出現した患側優勢の徐波が、血腫除去によりすみやかに減少、消失する傾向をみせた。

以上により、組織呼吸という点および脳波的にみた脳機能の点より、脳内に形成された血腫を除去するという点はその生体にとって効果的であると結論した。

(昭和42年8月 岡山医学会雑誌79巻7.8号に掲載)

論文審査の結果の要旨

最近脳溢血にたいし、急性期に外科的に脳内血腫を除去して患者を救命しようという試みが積極的に行なわれているが、本研究は脳内血腫が脳の代謝及び機能にいかなる悪影響を及ぼし、またその血腫除去が好影響を与えるかということ、実験的に組織化学及び脳波の面より検索し、脳溢血外科に重要な知見を加えたものとして、価値ある業績であると認める。

よって本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。